

平成28年度 建設厚生委員会

行政視察報告書

報 告 者

委員長	永岡 静馬	副委員長	坪内 涼二
委員	森川 佳英	藤間 義明	石橋 孝義
	河野 正行	田中 直文	

視 察 項 目

1. 石川県小松市
【平成28年8月1日（月）】
 - ・介護ロボットの普及推進について
2. 石川県金沢市
【平成28年8月2日（火）】
 - ・CCRC（高齢者居住コミュニティ）について
3. 石川県七尾市
【平成28年8月2日（火）】
 - ・老朽危険空き家等解消支援制度について

平成28年度 建設厚生委員会行政視察報告

建設厚生委員会委員長 永岡静馬

【日程】

平成28年8月1日(月)～8月3日(水)

【視察先】

1. 石川県小松市 「介護ロボットの普及推進について」
2. 石川県金沢市 「CCRC(高齢者居住コミュニティ)について」
3. 石川県七尾市 「老朽危険空き家等解消支援制度について」

【視察概要】

1. 石川県小松市 「介護ロボットの普及推進について」

人口108433人で、石川県内では金沢市、白山市について3番目に大きい市である。財政力指数は0.66という高い数値である。高齢化率は、23.4%ということで、江津市に比べて低い比率である。

【事業概要】

○小松市では、平成26年10月より介護ロボット普及推進事業費補助金制度を設け、市内の介護サービスを提供する事業者等における介護ロボットの導入を推進することにより、介護従事者の業務負担を軽減し、より質の高い介護サービスの提供を図るとともに、要介護者の自立を支援することを目的として実施している。

○補助対象品目としては、下記のとおりである。

カテゴリー	対象品目の例
認知症ケアに向けたコミュニケーション・メンタルケア	・パロ ・よりそい I f b o t (イフボット) ・PALRO (パルロ)
要介護者の自立歩行支援	・HAL (ハル) ・POPO (ポポ)
介護従事者の負担軽減	・マッスルスーツ

○補助金

- ・購入する場合 補助率 1/2
- ・レンタル/リース 補助率 2/3 (12か月まで)
- ・上限額 事業所ごとに50万円まで

○事業実績

9事業所から申請があり、下記のような介護ロボットが導入されている。

- ・パロ 7台 ・うなずきかぼちゃん 3台
- ・ポポ 4台 ・パートナーロボット 1台
- ・マッスルスーツ 1台

○このたびの視察先としては、特定医療法人社団法人勝木会 「やわたメディカルセンター」を視察させていただいた。このセンターでは、トヨタ自動車株式会社の開発した「バランス練習アシスト・ロボット」の説明を受け、実地体験をした。在宅高齢者の転倒予防が重要な課題となっている中、このようなロボットが開発された。

このロボットの特徴は、①実際に身体の重心移動を伴う形で練習ができる。②バランス制御に重要な下肢関節の動きを促進できる。③ロボット制御により、練習者に適した難易度を設定できる。④ゲーム感覚で飽きずに楽しく継続できる。

ゲームとしては、テニス(前後移動)、スキー(左右移動)、ロデオ(外乱に対するバランスの保持)の3種類がある。

効果としては、高齢者のバランス能力を向上させ、転倒予防に効果が期待できる。ゲーム性があるため、予防運動が継続されやすい。課題としては、ロボットの価格が高額(リースで10万円)である。このロボットの場合は、介護職員の人的労力は削減されない。(事故防止・見守りや機械の装着補助に付き添いが必要)

【感想】

私は、ゲームのテニスを実際してみたが、重心を移動させるのが、とても難しく、バランスを取る訓練につながっていることが実感できた。ゲームなので、確かに継続性は高いと思われた。研究開発段階の機器ということで、これから改良が進み、市場に商品として出てくるころには、もう少し安価になるものと期待している。

介護現場の職員の過労を予防するマッスルスーツの需要が低いのは、ロボットの装着に時間がかかること、重量が重いこと、などの理由によるとのことであった。また、認知症対応型のロボットでは、初期効果は期待できるものの継続性に疑問が残るとのことであった。

いずれにしても、まだまだ始まったばかりの取り組みであり、国の支援制度もこれからという中で、先進的に取り組んでおられる小松市の状況を見ることができたことは大きな収穫であった。介護現場で働く介護士の労働は過重である。これからますます高齢化が進むことは確実であり、介護士の肉体的・精神的・時間的負担を少しでも減らす取り組みは、確実に必要だと考える。給与面の処遇改善と合わせて、進めていくことが重要である。

また、要介護者へのアシストをするロボットも、改良を重ねて、実態に合った効果の高いものが出てくることを期待したい。

2. 石川県金沢市 「CCRC（高齢者居住コミュニティ）について」

石川県の県庁所在地である金沢市は、面積 468.22Km²で、人口 46 万 2361 人。予算規模は 1626 億 4 千万。財政力指数は 0.78 と高い数値である。高齢化率は 20.9% であり、比較的にかなり低い数字となっている。

〔事業概要〕

「シェア金沢（CCRC）」は、社会福祉法人「^{ぶっしえん}佛子園」（理事長 雄谷良成氏）が、実施している事業で、金沢市が行政として直接、行っているものではない。コンセプトは、障がい者や高齢者が社会から隔離されることなく、みんなが共に助け合って生きていく「ごちゃまぜ」のコミュニティ。エリア内には、ドッグランやストリートバスケット・コートがあり、ライブハウスからは軽快な音楽が流れてくる。美術大学の学生がアトリエ付きのアパートに住み、高齢者の話し相手になり、障がい者はカフェやクリーニング店で働いている。温泉施設もあり、地域の市民も利用している。まさに、「ごちゃまぜ」のエリアである。（下図参照）

Share 金沢 概要 [総面積/約 11,000 坪]



SOUTH 地区		
S-1 番地	天然温泉	ニュー ももや / 高齢者デイサービス・生活介護・訪問介護
EAST 地区		
E-1 番地	児童入所施設	E-2 番地 児童入所施設
E-3 番地	S-ステーション	E-4 番地 クリーニング & コインランドリー「おしゃれ洗科 ハンスプラス」
E-5 番地	バックヤード	E-6 番地 児童発達支援センター「S-ベランダ」
E-7 番地	「PSI-地域スポーツシステム研究所」	E-8 番地 ネイチャー・コミュニケーション「NPO法人 ガイア自然学校」
E-9 番地	アトリエ付き学生向け住宅	E-10 番地 全天候型グラウンド「S-STADIUM」
MIDTOWN		
M-1 番地	児童入所施設	M-2 番地 サービス付き高齢者向け住宅
M-3 番地	サービス付き高齢者向け住宅	M-4 番地 学生向け住宅
M-5 番地	学生向け住宅	M-6 番地 学生向け住宅
M-7 番地	学生向け住宅	M-8 番地 産前・産後ケア金沢「子そだて応援 1.2.SUN」
M-9 番地	サービス付き高齢者向け住宅	M-10 番地 学生向け住宅
M-11 番地	学生向け住宅	M-12 番地 児童入所施設
M-13 番地	サービス付き高齢者向け住宅	
NORTH 地区		
N-1 番地	日用品・生活雑貨「若松共同売店」	N-2 番地 ボディケア & からだ塾「金澤東山ゆらり」
N-3 番地	ブタン・セレクトショップ「TARAYANA JAPAN」	N-4 番地 Planning & Creative「グルーヴィ」
N-5 番地	Publish Bar「Mock」	N-6 番地 Foods & Smile「加藤キッチンスタジオ」
WEST 地区		
W-1 番地	アトリエ付き学生向け住宅	W-2 番地 サービス付き高齢者向け住宅
W-3 番地	サービス付き高齢者向け住宅	W-4 番地 「ウクレレバイナ金沢」

○サービス付き高齢者向け住宅は、32戸（平屋4棟16戸、2階建て2棟×8戸）1LDKに共有リビング
入居費用：85000円/月～95000円/月 共益費：20000円/月（2人では25000円）
生活相談等：15000円/月 敷金：家賃2か月分 駐車料：3000円/月
対象入居者：①単身高齢者世帯（60歳以上の者） ②高齢者+同居人（配偶者等）

○エリア内には、こうした高齢者の住居もあり、児童入所施設もあり、天然温泉もあり、学生アパートもあり、レストランもカフェもある。さらに障がい者が働く場としてクリーニング店もある。

〔感想〕

施設長からの熱心な説明が印象として、鮮烈に残った。「熱いんだな」という思いである。原点は、第2次世界大戦後の戦争孤児の保護・育成を行った理事長の祖父（僧侶）にあることを知った。

社会福祉法人「いわみ福祉会」との重なる部分が多いように感じた。こうした1か所に凝縮したエリアで、様々な立場の人たちが生活をする。この「生活をする」というところがすごいわけで、しかもエリアの中だけに閉ざされていない。広く市民に開かれている。特殊な(?)空間であるけれど、特殊でない「日常生活」が、そこにある。まさに、「町」をつくってしまった。施設長の説明では、理想としているのは「エリア型」でないらしい。いわゆる市内の中に散らばって、市全体が、一つの共同体の意識を共有する「タウン型」にしたいとのことである。

私の中では、理解が追いついていかない。高齢者施設や障害者施設などの単体の施設が町の中に点在しているのが現状である。これは「タウン型」ではないのか。残念ながら違いが、はっきり分からない。点として存在する施設でなく線から面として機能を有する町というイメージなのか。整理が追いつかない。エリア型は、分かりやすい。今のところ、こうしたエリア型のものすら少ないわけだから。重要なのは、「閉ざさない」「ごちゃまぜ」というコンセプトであろう。

3. 石川県七尾市 「老朽危険空き家等解消支援制度について」

面積約 318Km²、人口 5 万 4988 人の市で、近くには日本有数の和倉温泉がある。予算規模は一般会計では 337 億 7 千万で、財政力指数は 0.45 となっている。高齢化率は 29.6%であり、比較的に高い数字となっている。

〔事業概要〕

○七尾市では、市内の老朽危険空き家等の解体費用に対して解体費用の 1/2 を補助する制度を平成 28 年度に創設し、老朽危険空き家等の解消を推進している。木造家屋では最大 50 万円、木造以外では最大 100 万円を補助する。要件として、所有者や管理者が市税を滞納していないことや市が認定した老朽危険空き家等であることなどで、所有者や管理者からの申請により実施している。

○事業実績

平成 27 年に「空家等対策の推進に関する特別措置法」が施行されたことに伴い、この補助制度を創設する前から「特定空家等の判定に係るガイドライン」により、特定空家と認められた所有者や管理者に維持保全、除却を促す措置を取り組んできた。

- ・市内の空き家戸数 約 1400 戸 危険空き家対象戸数 274 戸
- ・H27 年度に処理をした件数は、近隣からの苦情があった件数 33 件のうち 16 件を処理した。
- ・H28 年度は、現時点で 11 件の申請があり、4 件処理をしている。
- ・予算は一般財源で 1000 万（20 件分）計上している。
- ・課題となっているのは、所有者がすでに死亡しており、3 代以上前の名義のまま、相続人がわからない物件があり、対応に苦慮している。
- ・産業廃棄物になるものがあるので分別処分をすると処理費用が高額になっていくことがある。
- ・この補助制度の周知は、町内会長から空き家の苦情があった場合、チラシを配布して通知してもらっている。

〔感想〕

江津市においても、この「危険空き家等」解消問題は、喫緊の課題であり近い将来、より大きな社会問題となることが容易に予想される。高齢化率が七尾市よりも高い江津市においては、早急に対応しなければならない課題である。これまででも空き家を修繕して、貸し出しをする空き家登録制度など、空き家対策を実施してきているが、貸し出しできない状態の「危険空き家」に対しては、手をこまねている状況である。

家屋が建っている土地の固定資産税の標準課税の減免制度の廃止など、税制の課題も一方で横たわっている中で、行政による「危険空き家」の解体には、所有者への費用負担が回収しにくいなどの問題も浮上しており、こうした補助制度の創設は、所有者の空き家解体へのインセンティブを引き出すことにつながると考える。個人資産であるだけに大変な問題であろうが、整理をしていく必要を強く感じた。

平成 28 年度 建設厚生委員会 行政視察報告

坪内 涼二

介護ロボットの普及推進について（石川県小松市）

■介護ロボット普及推進事業費補助金

小松市では、介護従事者の負担の軽減、質の高い介護サービスの提供、要介護者の自立支援を目的に「介護ロボット普及推進事業費補助金」を設け、介護ロボット導入を推進している。介護ロボットは

- ① 認知症ケアに向けたコミュニケーション・メンタルケア
- ② 要介護者の自立歩行支援
- ③ 介護従事者の負担（移乗・移動）軽減

の3つに分類され、7つの対象品目が補助対象品目となっている。（それ以外は要問合わせ）

平成 26 年 10 月の補助事業開始から、9 事業所 16 台数の実績があるが、介護従事者の負担軽減を目的に開発された「マッスルスーツ」においては、装着に時間がかかる、1 人では装着できない、重いなどの理由により、介護現場での利用が思うように進んでいない現状であった。

■バランス練習アシスト・ロボット

「やわたメディカルセンター」では、藤田保健衛生大学とトヨタ自動車が開発した「バランス練習アシスト・ロボット」について説明を受け、委員会メンバーが実際に体験を行った。在宅高齢者の転倒予防が重要な課題となっていることから、研究開発が進められ、入院患者向けに利用されている。テニス、スキー、ロデオの 3 種類があり、練習者に適した難易度を設定でき、ゲーム感覚で飽きずに楽しく継続することができる。下肢筋力（股関節・膝関節）、動的バランスにおいては改善効果が表れ、高齢者のバランス能力を向上させ、転倒予防と予防運動の継続においては効果がある一方で、リース料月額 10 万円と機器が高額であること（研究協力のため格安リース料となっている）、また機器使用の場合には、許可を受けたトレーナーがサポートしなければならず、人的労力の削減に至らないという課題もあった。

■感想

市担当者及び「やわたメディカルセンター」担当者から、介護ロボットが本制度導入の目的である要介護者の自立歩行支援や介護従事者の負担軽減にどれだけ効果があるかについて、現在のところデータ収集、試行段階であるとのことがあった。ロボット自体が高額であることから本市における早期の制度導入は困難であると考えますが、専門機関による効果がしっかりと検証されたのちには、要介護者の自立支援及び介護従事者の負担軽減に向け、補助制度導入などの環境整備についても検討する必要がある。



高齢者居住コミュニティについて（石川県金沢市）

■シェア金沢

「シェア金沢」は、社会福祉法人佛子園が運営する施設で、高齢者（半数以上が県外からの移住）、障がい者、大学生が一つのエリアで共に暮しており、共に手を携え、家族や仲間、地域や社会に貢献し、つながりを大切にしながら主体性を持って地域社会づくりを行っている。

首都圏をはじめとする都会地に暮らす高齢者が、自らの希望に応じて健康なうちに地方に移り住み、健康でアクティブな生活を送るとともに、医療介護が必要な時には継続的なケアを受けることができる地域づくりを目指す「日本版CCRC」構想の先進事例として注目を集めている。しかし、施設担当者は、「シェア金沢」が「日本版CCRC」を目指したことはなく、誰もが生涯活躍できる街（地域）を目指している。

■社会福祉法人佛子園

佛子園は、「シェア金沢」のほかに、廃寺を活用し、地域住民や子どもたちの憩いのスペースである「西園寺」の運営、障がい者の労働支援としてビール作りなどを行う「日本海倶楽部」、JR美川駅の指定管理を受託し、障がい者雇用による駅舎での待合室やカフェ運営、トイレ清掃などを行う「美川37（みんな）work」など、75事業に及ぶ事業を行っている。障がい者の雇用、自立支援に留まらず、地域社会との関わりを重視し、積極的な社会進出、地域交流を行っている。

佛子園は、障がい者が障がい者だけのコミュニティで活躍するのではなく、子どもから高齢者までの多世代や地域住民、ボランティア、施設に様々な仕掛けを施すことにより訪れる施設利用者など、複数の人・世代が「ごちゃまぜ」のなかで活躍すること、そして人が地域であることからそこにいる人を地域（表）に出していく住民自治の仕組み、持続可能・サステナブルな運営、圧倒的な交流人口のなかで地域住民が日常的に活躍する仕組みづくりが特徴である。

自治体や県内大学、企業とともに地方創生人材の養成にも努めており、ICT教育カリキュラムの開発・実施、新インターンシップの開発・実施、起業環境構築により、県内の就業率向上10%を目指している。

■感想

「シェア金沢」の視察に留まらず、佛子園が展開する様々な事業についても話を聞くことができ大変参考になった。「シェア金沢」については建設に17億円がかかっており、同様の事業を本市で展開することは困難であるが、佛子園が展開する事業のなかには参考にできる事業も数多くあった。いずれにしても、高齢者や障がい者が、その区分のなかだけで活躍する仕組みから、地域や多世代との交流により、いきがいを感じ、活躍する仕組みづくりが今後の福祉施策のなかで重要になってくる。



老朽危険空き家等解消支援制度について（石川県七尾市）

七尾市では、「空き家対策特措法」及び「建築基準法」に基づき、空き家等が不完全な状態となることを防止し、生活環境の保全及び安全安心なまちづくりの推進を目的に、平成 28 年度に「老朽危険空き家等解消支援制度」を創設した。市が認定した老朽危険空き家等に対して解体費の一部を補助するもので、平成 28 年 5 月、市内 249 町会に空き家に関する情報提供を求めたところ、全ての町会から回答があったわけではないが、非管理の放置空き家 1,400 戸、うち 274 戸が危険空き家と判明した。税情報と戸籍情報により 3 ヶ月から半年に一度、持ち主に対し写真とともに制度についても知らせを通知し、危険空き家等の解消を促しているが、所有者不明の空き家対策が課題であるとのことであった。

■感想

「老朽危険空き家等解消支援制度」で対応できる空き家は、所有者が判明しているものに限られ、空き家問題の最大の課題は、所有者不明の空き家対策であり、その部分については国において指針なり関係法令の改正、抜本的な制度改正などが必要。七尾市の取り組みは、自治体ができる範囲の取り組みを率先して行っており、本市においても、空き家所有者の追跡及び老朽危険空き家の解消促進に向けた継続的発信など大いに参考にすべき取り組みであると感じた。



平成28年8月22日

江津市議会議長 田中 直文 様

江津市議会議員： 森川 よしひで

行政視察報告書

日 時 2016.8.1 (月) ~3 (水) まで
場 所 石川県小松市、金沢市、七尾市
対応者 議会事務局、担当部署、責任者他

1. 石川県小松市 (メディカルセンター)

☆テーマ

「介護ロボットの普及推進について」

☆視察・研修 理由

最先端の介護ロボットの現状を見て、実感し、体感して、各ロボットの介護予防の効果、利用者・事業者、それぞれの課題と問題点、補助対象の内容、今後の普及推進について考察し、江津市での研究に役立てる為。

☆研修内容、感想、意見、参考点

介護ロボットには、○介護従事者補助・移動負担軽減タイプ、○要介護者の自立歩行支援タイプ、○認知症ケア・コミュニケーション・メンタルタイプ等があります。

今回の視察で、体験・研修を受けたのは、「バランス練習アシスト・ロボット」要介護者の自立歩行支援タイプです。

石川県小松市のメディカルセンターリハビリテーション技師部長の後藤伸介さんは、「このロボットの特徴と内容は、現在全国で20台が稼働し、金額は約1000万円余りで、身体の重心移動を伴う練習、バランス抑制に重要な下肢関節の動きを促進し、練習者に適した難易度を設定、ゲーム感覚で楽しく継続でき、下肢筋力が19%も改善し、バランス能力が18%改善したデータとなっています。」と語りました。

後藤さんは、このロボットについて「導入しても人的労力の軽減とはならないが、リハビリ促進の効果が期待できると思う。開発の背景には在宅高齢者の転倒予防が重要な課題となっている」と述べました。

又、小松市では、介護サービス業者等に介護ロボットの導入を推進する為に補助金制度を創設しています。

主な内容は、市内の特別養護老人ホーム8ヶ所と高齢者向けグループホーム10ヶ所が対象です。補助金は購入の場合は補助率二分の一、リース・レンタルの場合は補助率三分の二(12か月分まで)、上限額は各事業所ごとに50万円までとなっています。

私は、介護従事者の業務負担の軽減、より質の高い介護サービスの提供、要介護者の自立支援の為に、介護ロボットは必要と感じましたが、小松市でも1年間の実績としては全体で16台にとどまっていることから、江津市での導入には課題、問題もあると感じました。

☆今後に活かす課題と感想、学んだこと

現在介護福祉施設では、人員不足が慢性化しています。その代替りができる介護ロボットに関心が高まっていますが、介護ロボット導入の目的である、介護従事者の業務負担の軽減、より質の高い介護サービスの提供、要介護者の自立支援等は必ずしもうまくいっていない現実や高額な機器が一般的に普及するにはまだまだ時間と研究が必要であり、実用化によっては効果が出るものもあると感じました。

ロボット機器の発展・発達には、今後の利用者・事業所のニーズ（要求）、期待に応える介護ロボット機能が必要ではないかと考えます。介護ロボットに任せてやれる分野とやれない分野、人的な援助、補助が欠かせない分野など区別すること。使用するコストやメンテナンスなど江津市でも導入が可能かどうかの検討も必要と感じました。

2. 石川県金沢市（シェア金沢）

☆テーマ

「高齢者居住コミュニティについて」

☆視察・研修 理由

子供から高齢者まで、世代や障がいの有無を超えて行われている、多世代地域交流コミュニティ（街）を見学し、それぞれの経営のしくみや県・市との関わり方、組織運営について学び、江津市の交流人口を増やすヒントを得る為。

☆研修内容、感想、意見、参考点

社会福祉法人『佛子会』が約 17 億円をかけ、2014 年 3 月にオープンさせた『シェア金沢』。11000 坪の広さ（済生会江津総合病院と同等）のこの施設は、子どもから高齢者まで、世代や障がいの有無を超えて、多世代地域交流コミュニティ＝街として整備されました。

敷地内には、住居・職場・レジャー・アート等があり、様々な人が一緒に暮らし、周辺に住む人々も気軽に参加・利用できます。同じ館内には、温泉・高齢者や障がい者の為のデイサービス・訪問介護の機能も備えており、『佛子会』の担当者は『「ごちゃまぜ」のコミュニティで交流人口を増やしたい』と語りました。

『シェア金沢』でのサポート代（生活費）は、月 11 万 5 千円から 13 万円で、学生などの入所条件は、自分たちの特技を活かし月 30 時間のボランティアで地域に貢献することです。

『佛子会』は施設運営について「入所団体に昔の『銭湯のおばちゃん』のように、人をつなぐ役割を担ってもらい、施設全体を開放するのが運営ポイント」としています。

そして、地域から約 40 名が働く場所ともなっていることも強調しました。

又、「学童保育事業でアウトドア活動を取り入れ、いろいろな体験を通じて成長する子供たちを育て、家族交流など圧倒的な交流人口増を取り組んでいる」と説明しました。

私は、行政の役割は各施設間の調整と情報の共有等があるのではないかと感じましたが江津市でも各施設（介護施設、高齢者住宅、福祉施設、）情報共有等可能なことから始めるべきではないかと強く思いました。

☆今後に活かす課題と感想、学んだこと

当初の「シェア金沢」のパンフレットでは、複合施設と想っていたが、実際に現場に来て共同の街を創っていることがよくわかりました。

今後はタウン型（横のつながりをもった）の街がつくられて、お年寄りから障がい者まで皆で地域を支える方向が必要と思ったが、経営体の違う施設同士のつながりを行政がとりもつことは江津市でも可能ではないかと感じ、これからはこのような地域（お互い様地域）が交流人口を増やしていくことになるのではないかと思います。

3. 石川県七尾市（七尾市市役所）

☆テーマ

「老朽危険空き家等解消支援制度について」

☆視察・研修 理由

江津市でも危険な空き家が増加しています。

児童・生徒等の通学路対象の危険空き家対策や解体補助制度や危険空き家認定基準等の具体的な対策を学び、江津市としても調査を行い、空き家の実態を把握し、危険な空き家対策への障害や困難例などを研修して、今後の参考にするため。

☆研修内容、感想、意見、参考点

七尾市では、空き家実態調査を平成25年度行い、管理されていない空き家が1410戸、危険空き家が274戸（19.6%）2割程度あることが判明し、平成28年度に老朽危険空き家等解消支援制度を創設することを決定したと七尾市・建築課の担当者が説明しました。

この制度は、七尾市が認定した老朽危険空き家などの解体費用の一部を補助するものです。補助率は、木造は最大50万円、以外は最大100万円を補助するものです。

全国で適正な管理が行われない空き家（特定空き家）への対応状況は、建築基準法、空き家条例の制定、特別措置法の対策となっていますが、なかなか上手くいっていないのが現状で、その背景には、少子高齢化社会と今までの住宅政策の問題があることが指摘されています。又、空き家所有者への連絡、アクセスが困難であったり、相続が未処理の場合は、その情報が届かない、届けることができないことも指摘されています。

この施策の概要は、国の指針に基づき、○各市町村による計画の策定、○空き家等についての情報収集、○空き家等及びその跡地活用、○特定空き家等に対する措置の実施、○財政上の措置及び税制上の措置等を行うとしています。

総務省「平成25年住宅・土地統計調査」では、全国で空き家数は819万6千戸、13.5%となっており、今後の予測値は2033年には2000万戸を超えるとしています。その為に対策を急ぐことが必要とされています。

私は、江津市でも特定空き家実態調査を行い、市民の皆さんに通知し、老朽危険空き家支援制度の創設を強く感じました。

☆今後に活かす課題と感想、学んだこと

空き家の解体が進まない問題として、固定資産税制度の減免制度があり、さら地に戻すと固定資産税が高くなる問題は、税務課との連携が大事ではなかと指摘されました。

解体費用が高額になる理由で、進まなかったり、家の中に家財（仏壇等）が残っており、産業廃棄物処理等の費用がかかりできない事があり、国などの解体事業の補助金制度などの活用を検討したが進まないのも、市独自の補助制度の創設を実施したことが少しずつ進んだとのことは江津市としても参考にするべきではと思いました。

又、危険度を判定して、所有者にお知らせ、お願いしていることは、江津市としても取り組むべきではないかと思いました。七尾市で実施している、3カ月から半年に一回写真等を撮って所有者に送っていることは非常に大事ではないかと思いました。

空き家活用については、波子町の地域コミュニティ組織が、空き家活用の独自の取り組みを進めています。市内の空き家活用の対策、空き家活用の充実が求められていると思いました。

平成28年8月19日

建設厚生委員会行政視察報告

委員 藤間 義明

下記日程にて行政視察を行いましたので報告いたします。

☆日程 平成28年8月1日～8月3日

- ☆視察先 ①石川県小松市 やわたメディカルセンター
②石川県金沢市 シェア金沢
③石川県七尾市役所

① 石川県小松市 やわたメディカルセンター

動機・・・介護ロボット普及推進の状況視察の為

内容・・・「バランス練習アシスト・ロボット」を見、実体験しました。又介護ロボットの普及状況を聞きました。

感想・・・小松製作所のおひざ元である石川県小松市は、国の制度に先駆けて介護ロボットへの取り組みをされていると思いました。今後少子高齢化が益々進む中で介護ロボットの必要性は増し、需要も伸びてくると思いました。

② 石川県金沢市 シェア金沢

動機・・・CCRC(高齢者居住コミュニティ)の取り組み状況視察の為

内容・・・CCRC(高齢者居住コミュニティ)の設備・・・サービス付き高齢者向け住宅32戸、学生向け住宅8戸、児童入所施設、学童保育施設、天然温泉施設、レストラン&野菜市施設その他様々な施設・・・を見学し、内容説明を担当者から聞きました。

感想・・・子供から大学生、高齢者まで、世代や障害の有り無しを越えて、いろいろな人がつながり、地域社会づくりに参加する街を目指して造られた一つの町内の様でした。ポイントは温泉がある事、運営が社会福祉法人「佛子園」という組織がしっかりしていると思いました。江津では社会福祉法人「いわみ福祉会」、社会福祉法人「花の村」が似た存在だと思いました。今後江津市においても、社会福祉法人と教育関係と様々な展開が考えられ大変勉強になりました。

③ 石川県七尾市役所



写真・・・七尾市役所において

- 動機・・・江津市でも多い老朽危険空き家について、「老朽危険空き家等解消支援制度」を発足された七尾市役所に出向き状況を聞く為
- 内容・・・七尾市は19.6パーセントの空き家があり、今年4月から、「老朽危険空き家等解消支援制度」を創設されました。これは空き家解体費の1/2、木造は最大50万円、木造以外は最大100万円の補助を、条件が整えば支給しています。そうした取り組みに対しての状況を聞きました。
- 感想・・・昨年は36件の危険空き家の内19件が解消され、今年度は16件の内今までのところ4件が解消されているとの事でした。江津市においても今後こうした制度は必要になってくると思いました。

まとめ

今回の行政視察は石川県のみでしたが、現在江津市において課題になっているテーマ、;また今後なるテーマであり、非常に有意義な視察であったと思います。これらのテーマを、私自身江津市議会において今後一般質問で問い質したりする参考にし、又江津市政に反映できるように思っています。今回江津市役所担当課長も同行され、有意義な視察でありました。

H28年度 建築厚生委員会 行政視察報告書

江津市議会議員 石橋孝義

視察

I、「小松市介護ロボット普及推進について」

8月1日(月) 小松市役所
やわたメディカルセンター

II、「CCRC(高齢者居住コミュニティ)について」

8月2日(火) シェア金沢

III、「老朽危険空き家等解消支援制度について」

8月2日(火) 七尾市役所

I、小松市 介護ロボット普及推進事業費補助金について

1. 趣旨

介護サービス事業者等における介護ロボットの導入を推進するもの

2. 目的

- 介護従事者の業務負担の軽減
- より質の高い介護サービスの提供
- 要介護者の自立支援

3. 対象者

市内介護サービス事業者・施設

4. 補助対象品目

カテゴリー	対象品目の例
認知症ケアに向けたコミュニケーション・メンタルケア	○パロ ○うなずきかぼちゃん ○よりそいfbot(イフボット) ○PALRO(パルロ)
要介護者の自立歩行支援	○HAL(ハル) ○POPO(ポポ)
介護従事者の負担(移乗/移動)軽減	○マッスルスーツ

上記以外の品目は、要問合せ

5. 補助金

購入	補助率 1/2
レンタル/リース	補助率 2/3(12か月まで)
上限額	事業所ごとに50万円まで

6. 補助事業開始

平成26年10月1日

7. 実績

カテゴリー	対象品目の例	台数
認知症ケアに向けたコミュニケーション・メンタルケア	○パロ	7
	○うなずきかぼちゃん	3
	○よりそいfbot(イフボット)	
	OPALRO(パルロ)	
要介護者の自立歩行支援	OHAL(ハル)	4
	OPOPO(ポポ)	1
	○パートナーロボット バランス練習アシスト	
介護従事者の負担(移乗/移動)軽減	○マッスルスーツ	1
	合計	16

8. 現地視察

○特定医療法人社団勝木会 やわたメディカルセンター

・バランス練習アシストロボット

2008年藤田保健衛生大学との共同研究を経て、トヨタ自動車(株)が開発

①開発の背景

在宅高齢者の転倒発生率 年間 10~20%

(在宅脳卒中者 年間 40~60%)

転倒による骨折発生率 年間 5~10%

要介護状態の原因 12%「転倒、骨折」(H25年)

在宅者の転倒予防が重要な課題となっている。

②本機器の特長

1.実際に身体の重心移動を伴う形で練習ができる。

2.バランス制御に重要な下肢関節の動きを促進できる。

3.ロボット制御により、練習者に適した難易度を設定できる。

4.ゲーム感覚で飽きずに楽しく継続できる。

③本機器の効果 (平野ら. バランス練習アシストロボットの効果 : Jpn J Rehabil Med2013;50:500-504)

・慢性期脳卒中者 8名(平均年齢:50歳)

発症後2年10ヵ月

・練習方法

1回20分間(予備練習2分、ゲーム18分)

週2回、4週間(合計8回)

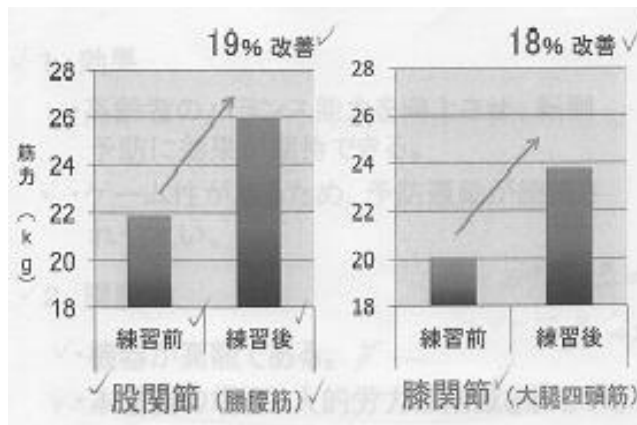
・測定指標

下肢筋力

静的バランス

動的バランス

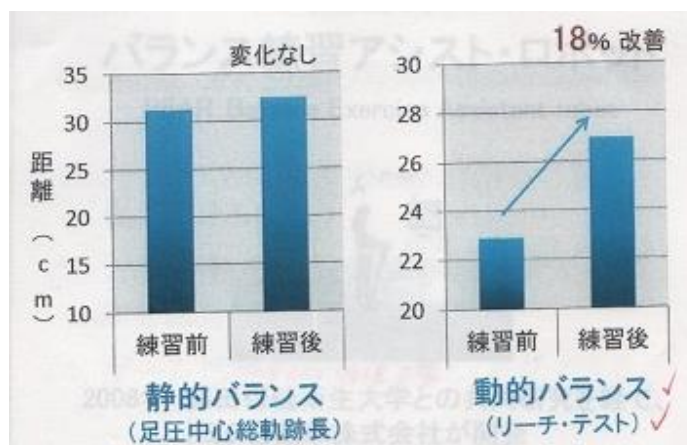
④下肢筋力



⑤ゲームの種類



⑥ バランス



⑦ 介護ロボットの効果と課題

1. 効果

- ・高齢者のバランス能力を向上させ、転倒予防に効果が期待できる。
- ・ゲーム性があるため、予防運動が継続されやすい。

2. 課題

- ・機器が高額である。
- ・本機器の場合、人的労力は削減されない。

〈感想〉

1. 介護現場の現状から、介護支援者の労働環境の改善のために必要と感じた。
2. 現状は開発途上で、大手メーカー(トヨタ自動車工業、ダイワハウス etc.)が数社でコストが高く、一般現場への導入に時間と経費が掛かりすぎの感じがする。
3. 市の補助金制度は和田小松市長(コマツのOB)の思い入れがあり、「普及推進事業費補助金交付要綱」を作成し公表している。
4. 認知ケアに向けたコミュニケーション・メンタルケアの「パロ」「うなずきかぼちゃん」「よりそいフボット」「パルロ」は、安価で導入しやすい。
5. 要介護者の自立支援「パートナーロボット、バランス練習アシスト」は、高価ではあるが効果はある。
6. 所感として、江津市においてもすぐの導入にはハードルが高いが、情報の収集と研究は怠りなくし、近い将来の導入に研鑽を積んでおく必要性を感じた。(介護支援機関と連携が必要)



パートナーロボット操作体験

II、金沢市「CCRC(高齢者居住コミュニティ)について」 シェア金沢

1. 事業主は「社会福祉法人 佛子園」が運営している。
2. 総面積約 11,000 坪(36,300 m²)
3. 総建設費(建設当初)17 億円 補助金 4.5 億円
残り 12.5 億は自己資金で運営
4. 高齢者ディサービス、生活介護、訪問介護(介護保険適用)、天然温泉、レストラン、配食サービス、サービス付き高齢者向け住宅、学生向け住宅、児童入所施設、産前産後ケア「子育て応援 1・2・SUN」、アトリエ付き学生向け住宅、全天候型グランド、日用品・生活雑貨「共同売店」、ボディケア&からだ塾「金澤東山ゆらり」、キッチンスタジオ etc. 多岐にわたりすべての日常生活のできるエリア内施設がある。
5. シェア金沢のエリアが一単位の町でありコミュニティであり、周辺も巻き込んでイベントや交流をしている。

〈感想〉

1. 介護事業を一般学生の力を借りてコロニー、コミュニティを形成している。
2. エリア内と一般住区が交流できるよう開放していて素晴らしい。
3. 自然を十分活用し、緑や高低差をうまく取り込んでいて、こころの癒しができるよう配慮している。
4. 今後の介護施設の在り方を見た気がした。



シェアハウス金沢にて施設長より説明を受ける。

III、七尾市「老朽危険空き家等解消支援制度について」

〈現状〉

1. 2015 年 5 月特別措置法により、七尾市として「危険空き家」を中心に「生活環境や防犯面」に関する調査を実施。
2. 本年 4 月より制度を取り組む。調査により昨年 33 軒認定うち 16 軒除去申請、今年度 4 軒除去
3. 市内約 1,400 戸の空き家が存在。(各町内会調べ)
うち危険家屋 274 戸(約 2 割)
4. 危険家屋、環境悪影響建築物を解体工事に多額の費用が必要となる。
5. 放置物件が増えて対策しないと人に危害を及ぼしたり環境上不良である。

〈対策〉

1. 昨年 5 月の国の特別措置法を受け、首長の決断で一般財源から年間一千万円の予算措置

を行った。

2. 「七尾市老朽危険空き家等解消支援事業補助金交付」の対応を実施。
3. 七尾市都市建設課建築行政グループ 3 名で、他事業をやりながら対抗している。
4. マニュアル化して、市民にチラシ等で周知を行っている。

〈感想〉

1. 江津市も老朽危険家屋が多数目につき、私も対策を早期にやる必要があると、担当課や一般質問を行ってきた。が、消極的の回答しかなかったが、市民の「安全・安心」のため、首長の判断により予算化し、早期の制度設定を行う必要性和至急行うべきと強く認識した。(問題意識の醸成を行うこと)



七尾市役所担当者より説明を受ける

以上

平成28年度 建設厚生委員会行政視察報告書

河野 正行

【平成28年8月1日（月）】

・介護ロボットの普及推進について：やわたメディカルセンター

内容：バランス練習アシスト・ロボットの説明と実演。

感想：在宅高齢者の転倒予防が重要な課題となっている現在、バランス練習アシスト・ロボットを使い、練習者に適した難易度、ゲーム感覚で飽きずに楽しく継続できる等、下肢筋力の静的・動的バランスの向上を目的に導入されている。転倒予防の効果は期待できるが、機器が高額、また、人的労力は削減されないという課題もあり、普及には時間が必要と感じた。

【平成28年8月2日（火）】

・高齢者居住コミュニティ（CCRC）について：シェア金沢

内容：障がいのある子どもたち、高齢者、大学生等が、一緒になって住むまちづくり、『世代も、障がいの有無も超えたごちゃまぜのコミュニティづくり』を進める取り組み。

感想：多世代の共生をコンセプトに、天然温泉を活用し、地元の人たちをも巻き込んだ『誰もが生涯活躍できるまち』づくりに共感を覚えた。江津市でも、人口減少が進み、昔ほど世間のつながりが多くないこの時代だが、地域コミュニティ等を利用し、常に第三者の目を大切にし、安心、安全に暮らせるまちづくりを行っていく必要を感じた。

・老朽危険空き家等解消支援制度について：七尾市役所

内容：老朽危険空き家等の解体費用を補助する支援制度。

感想：解体費用の2分の1（木造は最大50万円、木造以外は最大100万円）の補助率で老朽危険空き家等を解消するための支援制度だが、管理されていない空き家1400件中、危険空き家が274件との調査後、近隣は訪問し、県外は郵送での案内で解消を進めている。都市建築課3名で対応とのことだが、七尾市の人口57000人、世帯数21000件の件数を考えると3名では厳しいと感じた。江津市でも年々増える空き家だが、専属の職員での対応でないと解決は難しいと考える。

H28年8月18日
建設厚生委員
田中直文

行政視察報告

期 日 平成28年8月2日(火)～3日(水)
視察先 石川県金沢市、七尾市

「高齢者居住コミュニティ(CCRC)」について—金沢市(人口46万2千人)

〔事業概要〕

- ・ 社会福祉法人《佛子園》が約17億円をかけ、平成26年3月にオープンした《シェア金沢》
- ・ 面積は約1万1千坪で高齢者や障害者が社会から隔離されることなく、みんなが共に助け合って生きていこうとする「ごちゃませ」のコミュニティ施設だ。
- ・ エリア内にはこうした高齢者住居、児童入所施設、学生アパート、レストラン、カフェ、障がい者が働く場としてのクリーニング店、温泉も整備している。地域から40数名の雇用の場となっている。
- ・ サービス付き高齢者向け住宅は32戸(平屋4棟16戸、2階建て2棟×8戸)、1LDKに共有リビング、入居費用—85000～95000円/月、きょう益金20000円(二人で25000円)生活相談費—15000/月、敷金—家賃2カ月分
- ・ 対象入居者—60歳以上の単身高齢者世帯、 高齢者+同居人(配偶者など)



〔所 感〕

コンセプトは、障がい者や高齢者が社会から隔離されることなく、みんなで助け合って生きていく、「ごちゃまぜ」のコミュニティタウンだ。その原点は、第二次世界大戦後の戦争孤児の保護・育成を行った理事長の祖父（僧侶）にあり、慈悲の心で社会福祉貢献をするという高邁な気持ちにあるようだ。今では、住民の理解も得られ、教育のまち金沢市の学生も入り、地域の人も出入りし、いろいろな世代が融合し、施設運営も順調で、エリア型からタウン型へ移行しつつある。市が直接、行政として行っているわけでもなく、民間で高齢者居住コミュニティ（CCRC）を運営し、地域の活性化を図れることは素晴らしいことだ。当市においては「いわみ福祉会」が類似した福祉活動をしている。今後、こうした福祉事業を見据えて地域コミュニティを図ることも検討する必要がある。

「老朽危険空き家など解消支援制度」について—石川県七尾市（人口— 5万5千人、高齢化率29.6%）

〔事業概要〕

- ・ 市内の老朽危険空き家等の解体費用に対して、その費用1/2を補助する制度を、平成28年度に創設し、老朽危険空き家等の解消を推進している。木造家屋では最大50万円、木造以外では最大100万円を補助する。
- ・ 要件として、所有者や管理者が市税を滞納していないことや、市が認定した老朽危険空き家等で、所有者や管理者からの申請により実施。
- ・ 平成27年度に国の「空き家等対策の推進に関する特別措置法」が施行されたことに伴い補助制度を創設する前から「特定空き家等の判定にかかわるガイドライン」により、特定空き家と認められた所有者や管理者に維持保全、除却を促す措置を取り組んでいた。
- ・ 市内の空き家戸数は約14戸、危険空き家対象戸数は274戸
- ・ 平成27年に処理した件数—近隣から苦情があった33件のうち16件の処理



- ・平成28年度は7月末で11件の申請—4件処理
- ・予算は一般財源で1000万円（20件分）を計上している。
- ・課題は、所有者が既に死亡しており、3代以上前の名義のまま相続人がわからない物件があり対応に苦慮。
- ・補助制度の周知は、町内会長から、空き家の苦情があった場合、チラシを配布して通知している。
- ・産業廃棄物になるものがあるので分別処分をすると処理費用が高額になることがある。

〔所 感〕

七尾市は国の特別措置法の施行される前に、危険空き家等の維持保全、除却を促す措置に取り組んでおり、いち早い対策状況が見聞できた。

江津市においては、「危険空き家等」の対策が進んでおらず、安全面、景観面からも大きな課題となっている。当市は空き家を修理して、貸し出しをする「空き家登録制度」などの対策は早くから実施し、むしろ先進地としての評価を受けているところだが、一方、近年は危険な空き家が増えてきている。市として調査を実施し、実態を把握する必要がある。そして市独自の「老朽危険空き家等解消支援制度」を設け、安全・安心な街づくりを目指す必要を感じた。

1日目の小松市（介護ロボットの普及推進）の研修が他の公務により参加できず残念であった。今回、行政部の方へ議員研修に同行をお願いしたところ、趣旨を理解していただき、快く応諾していただいた。同じ研修を通して、議会、執行部が共通認識の下で議論をすることができ、今後は政策提言、一般質問等で市政にスピード感をもって、反映していきたい。